

図書館＝コモンズにおける アクティブラーニングのこれから

2018年11月1日(木)10:30~図書館総合展

帝京大学学修・研究支援センター

上岡真紀子 mueoka@main.teikyo-u.ac.jp

ラーニングコモンズで アクティブラーニングを実現する

ラーニングコモンズに関する議論

- 米国で先行
- 1990年代にインフォメーションコモンズ
- 2000年代以降、ラーニングコモンズへと転換
- Beagle (2004, 2008)
 - インフォメーションコモンズとラーニングコモンズを4種類に類型化
 - 「適合」「孤立した変更」「広範囲の変更」「変容」

インフォメーションコモンズから ラーニングコモンズへの変容の4段階

4. コアカリキュラムの改訂などの
全学レベルの学内改革・改善
の取り組みと連動（変容）

3. FDセンターやTeaching &
Learningセンターなどの他の
部門との協働による教
授・学習支援（広範囲の変更）

ラーニング・コモンズ

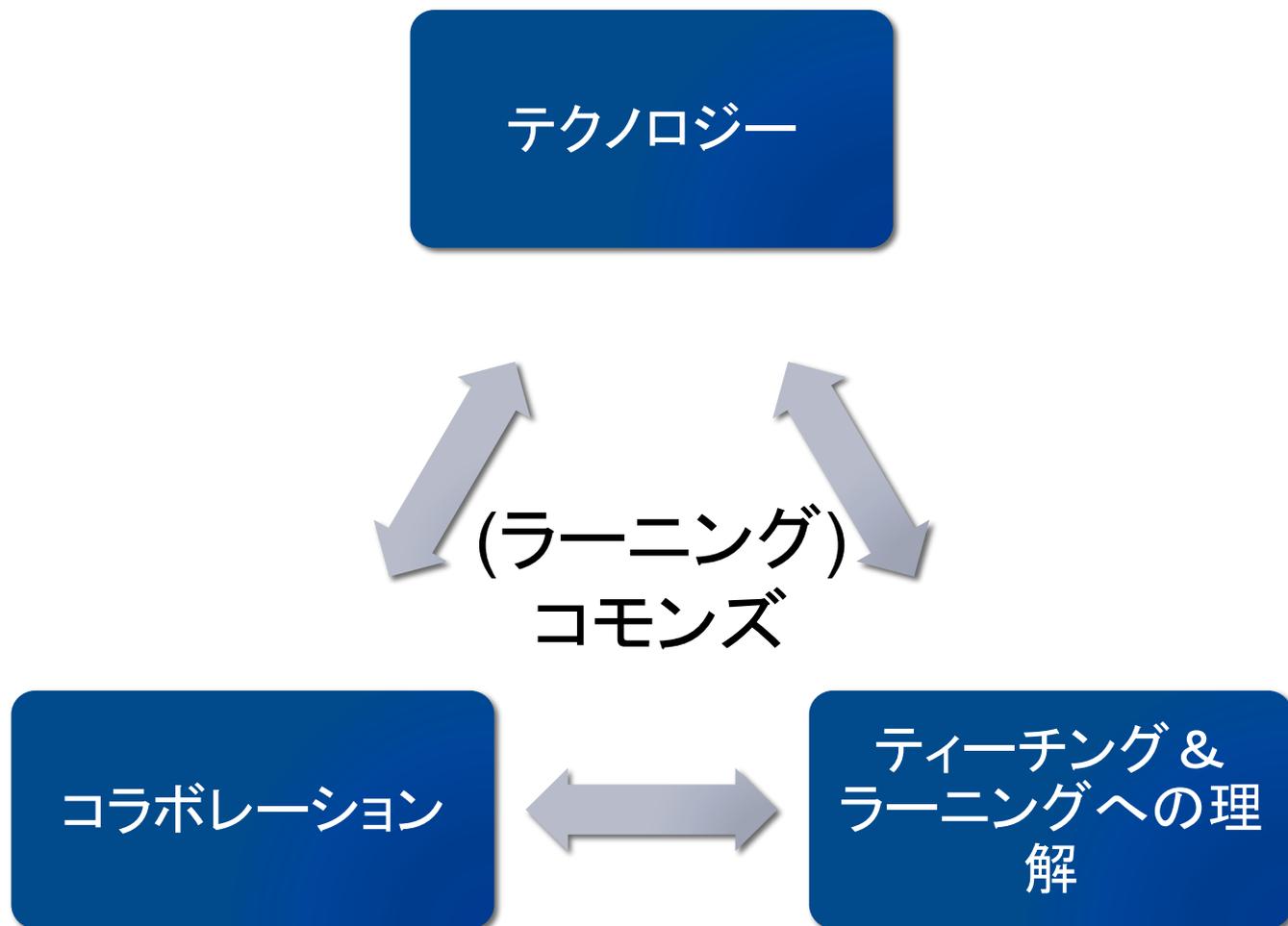
2. 図書館の独自運営による
学習支援（孤立した変更）

インフォメーション・コモンズ

1. コンピュータ・ラボと
グループ用のファシリティ
(適合)

(Beagle 2004, 2008 より作成)

図書館にとっての変容の手がかりは、



テクノロジー

- これまでも、現在も、これからも...
「図書館が**最先端の技術**を導入して、イノベータータイプなティーチング・ラーニングのあり方を示す」
- デジタルスカラーシップ支援: デジタルヒューマニティーズ等
- メーカースペース: 3Dプリンター、VR
- メディアスタジオ: 製作・編集
- これらの施設は、
 - 教員と学生を魅力的な最新技術で図書館に呼び込み、
 - 学内の図書館の専門性への理解を深め、存在意義への認識を向上させる

コラボレーション

- 「図書館を(自らも含めた)、**目的を共有する学内のすべての構成員とのコラボレーションの場**にしていく」
 - (最先端の設備を備えた)教室・ラボの設置
 - (協働を前提とした)学内の他のユニットのテナントの受け入れ
- これらの設置は、
 - 教員と学内の専門家をコラボレーションの場としての図書館に呼び込み(呼び戻し)、
 - 図書館の専門性への理解を深め、認識を変化させる

ティーチングとラーニングへの理解

- 「ティーチングとラーニングへの理解は、テクノロジーを活かす上で、コラボレーションを行う上での**共通言語**であることを理解する」
 - インストラクショナルデザイン、アセスメント、カリキュラム開発の知識
 - 高等教育界の動向、認証評価等の知識
- この実現のために、
- 図書館界によるティーチングとラーニングを理解した**教育専門の図書館員**の育成と、各大学図書館における担当としてのポジションの確立が必須
 - これらの専門業務は、もはやレファレンスの片手間には行えない
 - 興味・関心、実践を同じくする教育担当図書館員のコミュニティ形成と学習機会の提供
 - ベストプラクティスの共有

図書館の問題解決から、 全学の問題解決へ

- 図書館に、
 - グループで学習できる場所がない
 - 話しながら学べる場所がない
 - 水分・カロリーを補給しながら学べる場所がない
 - デバイスを充電できる場所がない

➡ これらはすべて図書館自身の問題である
- しかし今後は、
今、高等教育改革で求められ、かつ各大学が取り組んでいる、
「アクティブ」で「クリエイティブ」で「イノベーティブ」なティーチン
グ・ラーニングの実現に、いかに貢献できるかを考える
- ➡ 組織のティーチングとラーニングの優先事項と
課題解決に資するコモンズ＝図書館へ

新たなミッション

授業デザイン・カリキュラム開発支援

- ・「アクティブ」で「クリエイティブ」で「イノベーター」なティーチング・ラーニングの実現への貢献は、コモンズ内にとどまらない
- ・それらを実現する方法の一つが、「**各種の情報に基づいた学習（探求型学習・PBL等＝アクティブラーニング）**」の授業・カリキュラムへの**組み込み**である
- ・これらの学習は、学生に**情報リテラシーの獲得**を促す
 - 図書館員は、**情報リテラシー教育の専門家**として貢献する
- ・情報リテラシー教育の専門家である図書館員は、教員に対して、**情報リテラシーを獲得するための学習目標の設定、授業内アクティビティの検討、課題作成、評価計画の作成、**を支援する
- ・すなわち、「**情報リテラシーの観点から、教員の授業デザイン・カリキュラム開発を支援**」する